

Only One

和歌山の企業が元気!

Only One
和歌山の企業が元気!



発行日:平成17年1月
発行:和歌山県広報室 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 TEL 073-441-2032
和歌山県ホームページ <http://www.pref.wakayama.lg.jp/>
編集:株式会社クリエイター

W-wing(ウイング)
Wakayamaの「W」と現在進行形を表す「ing」を組み合わせ、翼(ウイング)を広げて飛び立つ和歌山県をイメージ。

主な相談窓口 ご要望にあった課室や研究機関にお気軽にご相談ください

経済センター内(和歌山市)

- 産業支援課 ☎073-435-2567
 - 大学発ベンチャー補助金 3p
 - SOHOブース・スタートアップオフィス 5p
 - 企業の企業支援
総合窓口
 - 企業ソムリエ委員会 14p
 - 経営革新支援補助金や融資相談等
- (財)わかやま産業振興財団
 - 経営支援部 ☎073-432-3227
 - 経営革新計画の事前相談窓口 12p
 - プロのノウハウ活用・企業プロデュース 13p
 - 取引情報交換面談会(下請取引)
 - テクノ振興部(県工業技術センター内) ☎073-477-5232
 - 技術支援・きのくにコンソーシアム 8p



経済センター

県庁内(和歌山市) ☎073-432-4111(代)

- 科学技術振興室 産学官連携の大型研究開発プロジェクト 8p
- 循環型社会推進課 リサイクル製品の認定
- 商工振興課 国際経済交流、地場産業振興
- 観光振興課 アンテナショップ(わかやま喜集館) 10p
- マーケティング企画課 インターネット販売(わいわい市場) 10p
- マーケティング推進課 全国チェーンスーパーへの販路や大手量販店での催事 10p
- 技術調査課 建設資材登録 10p

研究機関

- 工業技術センター(和歌山市) ☎073-477-1271 7p
総合的な研究開発・試験分析・技術指導の業務を実施
繊維染色・食品・材料・化学・システム技術・薬事・漆器・皮革・デザイン等多分野
- 農林水産総合技術センター
農林水産業関係試験研究機関
 - 農業試験場(貴志川町) ☎0736-64-2300
 - 果樹試験場(吉備町) ☎0737-52-4320
かき・もも研究所・うめ研究所
 - 暖地園芸センター(御坊市) ☎0738-23-4005
 - 畜産試験場(すさみ町) ☎0739-55-2430
養鶏研究所
 - 林業試験場(上富田町) ☎0739-47-2468
 - 水産試験場(串本町) ☎0735-62-0940
増養殖研究所、内水面研究所



工業技術センター



うめ研究所

その他

- 県内各市町村にある商工会議所・商工会
中小企業の経営相談窓口
(財)わかやま産業振興財団が行う企業プロデュースの候補となる企業の発掘
- (社)発明協会和歌山県支部(和歌山市) ☎073-432-0087
特許・商標等の出願手続、情報検索、権利売買に関する相談窓口 6p

わかやま産業イノベーション構想

元気企業の発掘・育成総合計画

和歌山県には約4万6千社の中小企業があり、それぞれの企業の活力が本県経済の活性化を促進します。革新的・創造的経営をめざす人や企業を発掘・育成することは、次世代の県経済を牽引する産業や企業を創出し、新たな雇用機会の創出にもつながります。

わかやま産業イノベーション構想は、やる気ある企業の経営革新や新事業拡大へのニーズに、技術・経営ノウハウの提案や販路拡大、融資などさまざまなシーンで支援します。



Only One

和歌山の企業が元気！

斬新なアイデアを持って起業したい人。
新たな発想で新事業を起こしたい企業。
県内には、今、オンリー・ワンの大きな可能性を持った新しい芽が生まれています。
県ではそんなやる気のある人や企業をしっかりと支援するために、わかやま産業イノベーション構想をはじめ、さまざまな取り組みをはじめています。

オンリー・ワンとは、それぞれの分野を代表する企業や、独自技術・商品により輝きをもっている事業者をいいます。

- 03 Stage 1 起業 起業をめざす人をしっかりサポート
- 05 Stage 2 育成 新しい才能を育てる環境づくりも充実
- 07 Stage 3 共同 産学官の共同開発で新分野を拓く
- 09 Stage 4 開拓 地方の魅力で販路を広げ、全国へ
- 11 Stage 5 資金 企業のステップアップを資金面からバックアップ
- 13 Stage 6 革新 プロのノウハウを経営革新に活かす

表紙写真:合成樹脂の製造過程(8p)

女性の起業を身近なものにする 「女性のための起業支援講座」が盛況

「女性のための起業支援講座」は起業をめざす女性を対象に、必要な知識の習得と能力開発を目的として、県男女共生社会推進センター“りいぶる”で今年度も行われました。

平成14年度を受講生で、インターネット通販のホームページ「しらすのなかむら.com」を開業した中村和枝さんは、「家業であるしらす加工業を自分にしかできないことで手伝いたいと思い、インターネット販売のアイデアを思いつきました。そんな時、無料で参加できるこの講座を受講し、念願のホームページ開設を実現させました。今後もどんどん新しいことにチャレンジしていきたい。」と語ってくれました。

中村さんは今年度の講座で講師を務め、起業をめざす女性にエールを送っています。



「受講で得た知識を活かして、ぜひ起業をめざしてください」と話す中村さん。



起業をめざす人を しっかりサポート

Stage 1 起業

技術やアイデアをもちながら、事業として発展させるノウハウがない。そんな起業をめざす人をサポートし、ビジネスチャンスにチャレンジする支援を行っています。



研究成果をビジネスに活かす 大学発ベンチャーを応援

県では県内産業を活性化するため、研究成果を活用して県内でビジネスを起こしたいと希望する大学の研究者や学生を対象に、創業に必要な経費の一部を補助しています。この制度を活用して平成14年11月に設立されたのが、近畿大学先端技術総合研究所にオフィスがあるジーンコントロール（茨城南市）です。

同社は、遺伝子操作によって癌などの病気を発病するマウスを生産し、新薬の開発や医学の発展に役立てようとする企業で、取締役で農学博士の三谷匡さん（右上写真）は、「大学が積み重ねた遺伝子工学技術の成果を社会貢献に生かしたい」と話します。



マウスの胚性幹細胞の大きさは約10ミクロン、1ミクロンは1000分の1ミリに病因をもつ細胞を注入する様子。先端医療研究でのマウス実験は不可欠で要求難度も高い。



知的財産の保護に活躍 「特許流通アドバイザー」

「特許流通アドバイザー」とは、(社)発明協会から同協会和歌山県支部に派遣されている専門家のことで、県ではその活動経費を補助し、中小企業の特許有効活用などの相談に応じています。

アドバイザーの協力を得て、乳幼児用冷却衣の商品化を実現したマザーシーズの宮田三冬さんは「素人ではわからないことを専門家の立場からアドバイスいただき、商品の契約段階から相談に乗ってもらって非常にありがたかったです」と話します。現在、県内数カ所の病院やスーパーマーケットで販売されています。



自分の子どもの発熱を下げるために乳幼児用冷却衣を発売した宮田さん。

Stage 2 育成

事業をスタートし発展させるには、オフィスや人脈、経営アドバイスなど事業に関わる環境づくりが必要です。県では事業を始める人のために充実したビジネス環境を提供しています。

新しい才能を育てる 環境づくりも充実



県経済センターの「スタートアップ・オフィス」に同居しているアルファシステムズ。ソフトの実用化も着々と進行中で、夢の実現に忙しい日々が続きます。

**起業家たちが集う夢の城
「スタートアップ・オフィス」**
「スタートアップ・オフィス」は、ITを活用した新規事業をめざす起業家や創業まもないベンチャー企業などに、低料金で充実したビジネス環境を提供しています。
平成15年2月に、脳の血流量の計測など医療用ソフトを開発するアルファシステムズ(株)を設立した赤松哲哉さんは、「立地が良くて事務所の経費が抑えられるので助かります。インターネットの設備も整ってとても便利です」と話します。

産業支援や大学との連携に関心のある中小企業に情報を発信する「ジョイナスプラザ輝集」が、平成16年度から県経済センター1階にオープンしています。
県の支援成果やSOHO事業者の案内を情報発信し、産学連携の窓口として、和歌山大学アーバンサテライト(毎週火曜日)も開設されています。



「ジョイナスセミナー」を企画する和歌山大学産学連携コーディネータの湯崎真梨子さん。

情報交流の場「ジョイナスプラザ輝集」 「和歌山大学アーバンサテライト」



「ジョイナスセミナー」では毎回、年齢も職種もさまざまな人が参加し、熱気があふれる。



「ホームページで募集記事を見つけ、すぐに応募しました」と話す赤松さん。

Stage 3 共同

産学官の共同開発で 新分野を拓く

ひとつの企業だけでは膨大な時間を要する研究や技術開発も、
産学官が互いに協力することでスピーディに大きな成果が得られます。
今、垣根を超えた共同開発が和歌山の産業を活性化しています。

共同開発で
天然フェルラ酸の製造に成功

フェルラ酸とは米糠^{ぬか}に含まれる物質で、食品分野において抗酸化剤や変色防止剤に使用されています。以前は合成でしか製造できなかったでしたが、米糠から米サラダ油を製造する築野食品工業^{（株）}が製造過程で排出される廃油の再処理を県工業技術センターと共に研究したこと、天然のフェルラ酸の効率的な抽出製造法の開発に成功しました。

現在は県工業技術センターが用途開発を、大量生産の技術開発を築野食品工業が担当し、食品分野のみでなく化粧品や香料、医薬品の原料として活用されるよう研究を続けています。



フェルラ酸を用いた製品。



フェルラ酸を使った新たな用途開発の研究も進行中。



「環境に優しいポリ乳酸はこれから期待される樹脂。製品開発にも大きな可能性が広がります」と話す大洋化学(株)技術開発部の上田重雄次長と尾崎美沙さん。

「きのくにコンソーシアム」で
ポリ乳酸加工の製品開発に挑む

「きのくにコンソーシアム」とは、産学官研究交流会を通じ、大学や行政の試験研究機関と企業が連携して独創的な新製品や新技術の開発に取り組むグループ（コンソーシアム）に対し、（財）わかやま産業振興財団が支援を行うものです。

合成樹脂成形品の製造販売を行う大洋化学^{（株）}はこの制度を活用し、植物（とうもろこし等）から得られるポリ乳酸を原料とした生分解性樹脂を用いた製品開発を県工業技術センターと共同で開発しています。

現在、同センターではポリ乳酸の課題とされている耐熱性の改善を研究し、大洋化学では改善された特性を活かした製品の開発を進めています。将来は、透明で肉圧な樹脂の加工技術を開発し、さまざまな用途に活用できるように頑張っています。

生分解性樹脂：土に埋めると微生物の働きで分解が起こり、時間が経つと消滅してしまう環境に優しい樹脂



ポリ乳酸（手前）と成形加工した樹脂。より透明で厚みを持たせる加工技術の開発を進めている。

和歌山県の英知を結集して次代の新技術を研究

大型研究開発プロジェクト

県と（財）わかやま産業振興財団は、大学や県立試験研究機関などの技術や人材を活用して、新しい起業や産業の種を探し、競争力のある技術を生み出すことにも積極的に取り組んでいます。

地域結集型共同研究事業

大学と関係企業等の結集して、より競争力のある農業資源の開発や産業化を行うため、ウメ枯れや環境ストレスに強い優良台木の開発、有用牛の効率的な生産技術の開発などの大型研究開発を行っています。



都市エリア産学官連携促進事業
和歌山市に集積する化学系企業を対象に、大学等の研究者の高い技術力を活用し、競争の激しい有機化学材料の分野で、１ミリの１００万分の１という微細なナノレベルの技術力を生み出す研究開発を行っています。



地方の魅力で 販路を広げ、 全国へ

地方の特産品がブームとなる中、和歌山の“ほんまもん”を全国へ展開するためのさまざまな取り組みを行い、大きな成果を上げています。

県内企業の新たな取引先を開拓する取引商談会を開催

(財)わかやま産業振興財団は、県内企業の優れた自社製品を県内外企業に広く紹介する取引商談会を開催し、県内企業の新たな販路拡大に支援を行っています。

和歌山マリーナシティで開催した取引商談会では、県内出品企業36社、県内外の購買企業6社が参加し交流を深めました。「製品に自信を持っておられるのがひしひしと感じられ、たくさん良い商品を見つけることができました」と購買企業からの声も寄せられています。



全国に向けた県産品の販路拡大やブランド化を支援

全国チェーンのスーパーマーケット食品売場において和歌山フェアを開催し継続取引につなげたり、インターネット販売(わいわい市場)により幅広い消費者に県産品をPRしています。

また商品改良や商品開発の支援、新たな販路の紹介や営業方法のアドバイス等を行う「わかやま県産品ブランド化支援アドバイザー」の派遣もしています。

大阪府堺市の大手スーパーマーケット食品売場に新設された和歌山コーナー。鮮魚をはじめ梅干や金山寺味噌など店内には県産品がずらりと並ぶ。



観光コーナーや多目的サロンもあり多くの人で賑う店内。

東京で好評のアンテナショップ「わかやま喜集館」

「わかやま喜集館」は、平成16年に県が東京に初出店したアンテナショップです。

梅干やさんま寿司、紀州備長炭など特産品450品目という豊富な品揃えと、販売品目のほとんどが試食可能という趣向が好評で、オープン以来、人気を集めています。

県産品建設資材の積極活用で地場産業を活性化

景気浮揚と雇用の確保、地場産業の育成・活性化のために、県産品建設資材を県が発注する公共工事で積極的に活用しており、総建設資材費に占める割合は、平成15年度で5割を超えています。

また、検索や登録ができる「和歌山県建設資材けんさんぴん検索システム」をホームページに開設し、今後も利用がさらに増えるよう設計・施工業者や製造業者などに一層の協力を求めています。



県産品建設資材(間伐材)を使って田辺市に設置した転落防護柵(上)と遮音壁(下)



自慢の商品を展示した取引商談会。購買企業との会話も弾む。参加後に購買企業と連絡を取り合うなど手応えも上々。

企業のステップアップを 資金面からバックアップ

事業の拡大や新製品の研究開発など、企業の新たな可能性へのチャレンジを充実した融資制度で支援。次代に実を結ぶ企業努力をバックアップしています。

Stage 5 資金

地場産業から エレクトロニクス分野に進出

太洋工業(株)は、地場産業であるファッションプリント用の印刷型を製造する工場から、そのプリント技術を活かし、県工業技術センターの支援を受けてフレキシブルプリント基板製造に進出しました。フレキシブルプリント基板とは携帯電話やデジタルカメラに使用されるもので、現在では大手メーカーの研究室を顧客に多彩なニーズに応える配線板の試作品を開発しています。

平成15年には創造法の知事認定を受け、研究開発補助金によりフレキシブルプリント基板を用いた電子基板検査機の開発に成功。平成16年12月にはジャスダック市場への株式上場を果たしました。



助成を受け開発した検査機は、各メーカーのニーズに合わせて改良を重ねる。

さまざまな用途展開が可能な梅シート。



梅干製造販売から経営革新で 新事業の梅シートを開発

創業以来、梅干の製造を中心に梅加工品の製造販売を行ってきた(株)ウメ食品は、料理などの使い途が限られた梅肉の利用をさらに広げ、需要を高める新製品として、梅肉をシート状に加工する技術の開発に成功しました。

この開発を機会に梅肉シート製造販売を新事業として位置付け、経営革新法を活用。同法の支援策の一つである融資により、将来はメーカーとして製造から販売まで一貫した体制づくりをめざしています。

現在ではデパートやコンビニエンスストアからの引き合いも多く、さらにパンや洋菓子業界への進出へも意欲を高めています。



企業ソムリエ委員会は、随時、ビジネスプランを募集中。

オンリー・ワン企業を発掘・育成する「企業ソムリエ委員会」

今、県産業の活性化のためには、情熱をもって新しいことに取り組む企業のチャレンジ精神と産学官一体となった共同研究などにより、『出る杭となる企業』を育成し、和歌山発の新しい産業を創出することが必要となっています。

「企業ソムリエ委員会」(会長:島正博氏(株)島精機製作所代表取締役社長)は、中小企業から応募された新製品や新サービス・新技術などの新たなビジネスプランを審査・評価し、認定した企業に対してはオンリー・ワン企業に育つように効果的な支援を行っています。

「企業プロデュース」の支援でアイデアをカタチに

有田市で柑橘類の果実と手しぼりのジュースを作る伊藤農園は、「企業カルテ評価委員会」で支援企業に選定され、「企業プロデュース」の派遣指導を受けました。

初回の感想を伊藤修さんは「専門家に具体的なアドバイスを受けて、自分のビジネスプランに欠けていることやアイデアを販売につなげる可能性が明確になり良かったです。次の会議が楽しみです」と話します。



「専門家まかせにせず、一緒に考えることが大事です」と話す専門家チームの豊田さん(左)とアドバイザーを受ける伊藤さん(右)。

Stage 6 革新

経営のプロフェッショナルのノウハウを結集し元気でやる気のある企業をプロデュースしています。

プロのノウハウを経営革新に活かす

専門家チームによる「企業プロデュース」が企業を変える

企業プロデュースチームは、(財)わかやま産業振興財団の企業カルテ評価委員会を通じて選ばれた企業を対象に、ビジネスプランの実現に向けて積極的なアドバイスとサポートを行っています。

経営に関わるさまざまな分野から選任された9名の専門家から構成され、企業の経営革新・第二創業・新製品開発・販路開拓など企業のビジネスプランの実現に向けてともに考えるプロジェクトチームです。

その活動は、専門家チームの意見を集約し企業のビジネスプランをさらに充実したうえで企業にフィードバックするプロデュース会議と、企業に専門家を直接派遣し指導するプロデュース派遣指導があり、双方の活動が相互に補完することで企業の次代へのさらなる発展をめざします。



専門家によるプロデュース会議。

さまざまな分野から選任された企業プロデュースの専門家チーム

和田好文 / ITコーディネータ
【和歌山ITコーディネータ協議会】
ITコーディネータとして、経営に役立つIT投資の指導など、ITと経営との橋渡しを行います。

正岡幹之 / 商学修士
【正岡マーケティング・マネジメント事務所代表】
これまでのマネジメントで培ってきたノウハウを活かし、アパレルや生活雑貨等の販路開拓に対する支援を行います。

豊田美智子 / 中小企業診断士・販売士等【Office T.M.C代表】
商工会議所 / 中小企業相談所
経営指導員としての経験を活かし、商業・サービス業での販売促進等について、企業とお客様の目線に立った指導を行います。

水城実 / 税理士・中小企業診断士・社会保険労務士
【水城会計事務所代表】
多くの県内企業コンサルティングのノウハウを活かし、特に、新規創業者や経営革新事業者への育成に取り組みます。

河崎昌之 / 【和歌山大学地域共同研究センター助教授】
和歌山大学地域共同研究センターのコーディネート機能を活かし、大学と企業との共同研究等の橋渡しを行います。

川口正二 / 【(財)わかやま産業振興財団プロジェクトマネージャー】
企業プロデュースチーム主宰
企業プロデュースチームの主宰者として、メンバーの力を結集し、一丸となって企業の経営課題に対する支援を行います。

木瀬良秋 / 【(財)わかやま産業振興財団経営支援部長】
民間企業での経験を活かし、経営戦略から販路開拓に至るまで、企業の立場に立った経営支援を行います。

西村敏郎 / 【(財)わかやま産業振興財団テクノ振興部長】
民間企業での経験と、財団が持つ試験研究機関との連携機能を活用し技術面での橋渡しを行います。

橋本勝明 / 【(財)わかやま産業振興財団マーケティングマネージャー】
流通業界での経験を活かし、販路開拓等マーケティングに関する経営課題に取り組みます。

